

平成 23 年度第 1 回松阪市環境パートナーシップ会議全体会

日時 平成 23 年 4 月 26 日(火) 午後 1 時 30 分～午後 3 時 30 分

場所 松阪市嬉野保健センター 大会議室

出席者

29 名

会長

朴 恵淑(三重大学理事・副学長)

副会長

西出紀生(松阪市自治会連合会)

市民・市民団体 14 名

鈴木博、滝本玲子、中北喜彦、中西秀和、林田淑、飯南地区生ゴミ堆肥化研究グループ(辻根)、魚町一の会(石村)、嬉野アイリス(小坂)、観音岳森づくり栄林の会(辻)、健康・福祉・環境日本一をめざす市民会議(大平・伊藤)、松阪市自治会連合会(横井)、松阪市 PTA 連合会(横山)、三雲アイリス(中村)

事業者 8 社

生活協同組合コープみえ、セントラル硝子株式会社、東海ゴム工業株式会社、パナソニックエレクトロニックデバイス株式会社、マックスバリュ中部株式会社、松阪農業公園ベルファーム、松阪北部商工会、ヴァーレ・ジャパン株式会社

アドバイザー

西孝(三重中京大学地域社会研究所)

オブザーバー

三重県松阪農林商工環境事務所

事務局 3 名

三田環境課長、山口環境推進担当主幹兼係長、環境推進係(垣本)



議事の内容

- 事務局(環境課長)あいさつ
- 会長あいさつ

1. 平成 22 年度の活動報告

※事務局より説明

1. 平成 23 年度の活動内容について

※事務局より「親子環境学習会プロジェクトチーム」、「緑のカーテンプロジェクトチーム」、「環境フェアプロジェクトチーム」について説明

※ベルファームより「環境フェア」について説明

会長 : どのプロジェクトも部会の枠を超えて取り組めるものなので、是非とも皆で考えていくためにも、多くの意見を出して欲しい。昨年の「緑のカーテン」は多くの施設で行われ、省エネの観点からもとてもタイムリーなものであり非常によかったのだが、その結果が得られなかったのは残念。簡単な温度計でいいので、子どもたちがその温度差を確認・記録するようになれば、現場の生の声が聞けるし、「緑のカーテン」の省エネ効果が得られると思う。協力してもらえる所に呼びかけてデータを集め、その効果を得ることにより、いろんなところでの省エネ対策や温暖化対策に直結していく。そこにこの環境パートナーシップ会議が繋がっていくという、非常に良

いプロジェクトが「緑のカーテン」であるので、是非とも効果が得られるような事を考えて欲しい。「緑のカーテン」は、環境省が最重点課題の一つとして全国的に広めようと動いている。また、三重県地球温暖化防止活動推進センターには『暮らしのアドバイザー』があり、温暖化対策に関して様々なアドバイスをしてくれるが、この資格は2日間の講習で取れるので、環境パートナーシップ会議の会員が資格を取って、9月の「環境フェア」で講習会を開いて、親子環境学習の一つにすることもできる。このように、それぞれのプロジェクトが繋がっていくようにいろいろな機関が協力していくので、こういう部分も考えていてもらいたい。

会員 : 去年はこちらから苗をもらって福祉会等に配ったが、アサガオもゴーヤも種が採れなかった。今年も環境課から苗はもらえるのか？

事務局 : 昨年福祉会や教育機関等に配布した苗は、レジ袋有料化検討会からのものであり、今年は震災の影響で収益金の使途がまだ決まっていない。今回は松阪市の予算になるので、市民の方への配布のみとなる。今年は苗の配布のお手伝いをお願いするが、来年度からは苗の育成から配布までのプロジェクトとしてこの会議で取り組んでいきたいと思っている。また、去年の苗は高校に種からの育成をお願いしたものであり、種類によって育ち方が変わってきたものと思う。

事務局 : 肥料や土も影響していると思う。

会員 : 品種によって育ち方に差が出る。水や土の量、化学肥料も必要。

会員 : 苗の配布時に、詳しい育て方のパネル展示をしてはどうか？

会長 : 「緑のカーテン」が松阪市の夏の風物詩になるためにも、前準備が重要。市の広報紙にも育て方を載せるとか、市役所のロビーに展示するとか、いろいろ工夫する必要がある。農業関係の高校とパートナーシップを組んで一緒にやっていくようにすれば、いい形で進んでいくと思う。三重大でも去年から「緑のカーテン」を始めたが、なかなか上手く行かなかった。今年、今年植物専門のアドバイザーをお願いして取り組んでいく。「緑のカーテン」を一生懸命やっていく意思があるのならば、ただ配るだけではなく、市民の目をこちらに向けさせるための努力が必要。松阪市といえば「緑のカーテン」になるように、環境パートナーシップ会議の目玉にして取り組んでいてもらいたい。

会員 : 自宅でも葡萄を「緑のカーテン」として育てており、とても効果が出ている。植物は生物であり、命を学ぶということに繋がって拡がりが出てくる。農家とパートナーを組むこともいいのではないかな。

- 会員 : 数十年前のアサガオが今も咲いているので、野生に近い品種の方が育つのではないかと思う。ヘチマも日陰を作ってくれる。中川新町では、昨年「緑のカーテン」コンテストを実施したが、なかなか良くできていた。このようなコンテストをすれば、子どもたちも喜んで取り組むと思う。
- 会員 : 昨年保育園で「緑のカーテン」に取り組んでいたが、高校からもらったと言っていた。環境の面からも、環境パートナーシップ会議からということをちゃんと伝えるべきだと思う。
- 会員 : コンテストはいいと思う。9月の環境フェアで審査できるように写真の提出をお願いすれば、育てる意欲が出ると思う。
- 会長 : コンテストをやしましょう。津市でも冬にイルミネーションのコンテストをやっているが、応募も多いし人も集まる。コンテストはやる気を出させるものなので、苗の配布時に周知し、プロジェクトを繋げる意味でも「環境フェア」で審査すると思う。松阪市のPRにもなる。配ったからには責任を持って、最後までやっていく。
- 事務局 : 来年度からは、プロジェクトとして種から取り組んでいければと思っている。
- 会員 : 「環境フェア」で、森林に繋がるようにバイオマス事業についてもレクチャーしてもらいたい。関連性のあるものと組み合わせてレクチャーすれば、いろんな効果がわかりやすいと思う。
- 会長 : 事前の勉強会が必要だと思う。今年の「環境フェア」でエネルギーを考えるようにして、上手くいけば来年の事業活動の一つにしてもいい。人材活用の意味でも検討してほしい。
- 会員 : 震災を風化させないためにも、泥水を飲料水に浄化するといった技術を展示するのはどうか？
- 会員 : 飲料水まではいかないが、生活用水には可能。今年の「環境フェア」では炭を使って行ったが、活動としては果たしてどうか。
- 会員 : 子どもたちに環境へ目を向けさせる、という意味だけでもどうか？
- 会員 : 遊びの範疇であれば可能。
- 会長 : 県に資料がある。防災専門家の話は難しい。子どもにも理解できるようなものが環境パートナーシップ会議のテーマである。命を守るための防災として、少しずつ勉強しながら今後の課題の一つにしていく。
- 会員 : 生ゴミ処理を市が規格化して、それを一つに集めれば資源としての有機肥料が出来る。竹林の整備に力を入れている団体があり、粉末化した竹を堆肥化の際に入れると効果が出るとして取り組んでいるが、どうしても小さな団体で終わってしまう。この環境パートナーシップ会議でまとめて

規格化していけば、生ゴミの資源化に大きく貢献できる。実績に対して補助金が出るようにすれば、活動も活発化していく。こういったことを、この環境パートナーシップ会議から発信してほしい。

会長 : ゴミ減量を、環境パートナーシップ会議の重要テーマの一つとして取り上げて、今後の活動内容を部会で検討していく必要がある。

会員 : ゴミ処理場の建設によって市民活動の発表の場が出来ると聞いたが、そのフロアを有効に使うためにも、環境パートナーシップ会議から誰か関わってくれないか、と言う話も聞いたがどうということか。

事務局 : 担当部局ではないのでよくわからないが、現在建設中のリサイクルセンターに、いろいろな活動の場としてのフロアを検討していると聞いている。教育の場としても活用できるらしいので、可能であれば我々も活用したいと思っている。

会員 : 市民活動センターには多くの団体が参加しており、様々な展示がされているので、是非とも活用してもらいたい。

会長 : 生活に密着したゴミ問題を、来年度以降の重要テーマとして考えていきたい。各部会は今後も引き続き行い、結果をHPに掲載する。全体会は必要に応じて年に1~3回開催するようにする。

会員 : 事業者の廃棄物リサイクルについて、市民が知る機会が無いので、出来れば発表してほしい。また、市内のリサイクル事業者の具体的活動内容を知りたいので、リサイクルの現状を知るためにも、見学会を企画してほしい。

会長 : 事業者は説明責任を果たすためにも、見学会・勉強会を開催する方向で考えて欲しい。では、他に無いようなので、今日はこれで終わります。